

● 会場情報 ●

11月 7日(金) 神戸新聞 松方ホール 全席指定
〒650-0044
神戸市中央区東川崎町1-5-7
神戸情報文化ビル4階
TEL/078-362-7111



11月 24日(月・祝) 神戸新開地・喜楽館 自由席
〒652-0811
神戸市兵庫区新開地2丁目4-13
TEL/078-335-7088



11月 27日(木) WADAホール 自由席
〒650-0023
兵庫県神戸市中央区栄町通4-2-13
TEL/078-362-1358



本会場は鈴木商店創業の地でもあります。

11月 28日(金) 神戸新開地・喜楽館 自由席
11月 30日(日) 神戸新開地・喜楽館 自由席
12月 1日(月) WADAホール 自由席

チケットはお近くのローソンで
お求めください(全公演共通)

ローソンチケット

【L:54574】
<https://l-tike.com>



※本公演は、全日程同一演目となります。未就学児の入場はご遠慮ください。

旭堂南龍 プロフィール

2004年、旭堂南左衛門に弟子入り、「南青」となる。
2018年、上方講談界で27年ぶりの真打昇進。
同時に上方の名跡「南龍」を襲名。
2019年、大阪市「咲くやこの花賞」受賞。
2021年、第76回「文化庁芸術祭」新人賞受賞。

講談会

鈴木商店 百折不撓

知られざるその後

神戸で創業した鈴木商店は、数多くの製造事業を設立し、日本の産業革命を牽引した。個人商店でありながら、大正期には財閥を凌駕し、日本一の総合商社に上りつめるも、昭和二年に破綻。しかしその後も鈴木商店が育んだ人材と事業は現在まで脈々と受け継がれている。知られざる逸話も交え、鈴木商店の百折不撓の物語を、講談師の旭堂南龍が語る。



旭堂南龍

2025

料金 2,500円(税込) 一般発売 8月7日(金)

11月 7日(金)	神戸新聞 松方ホール	開場 17:30 / 開演 18:00
11月 24日(月・祝)	神戸新開地・喜楽館	開場 10:00 / 開演 10:30
11月 27日(木)	WADAホール	開場 18:00 / 開演 18:30
11月 28日(金)	神戸新開地・喜楽館	開場 18:00 / 開演 18:30
11月 30日(日)	神戸新開地・喜楽館	開場 10:00 / 開演 10:30
12月 1日(月)	WADAホール	開場 18:00 / 開演 18:30

各会場とも公演時間は約75分

主催 / ラジオ関西

特別支援 / 双日 特別協賛 / 太陽鋳工グループ 協賛・協力 / 鈴木商店関係企業・団体
特別後援 / 辰巳会 鈴木商店記念館 後援 / 神戸市 神戸新聞社 神戸大学

協賛

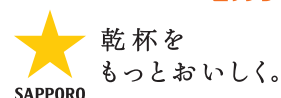
特別支援



特別協賛



協賛・協力



特別後援



辰巳会 鈴木商店記念館

後援

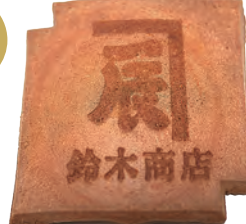
神戸市 神戸新聞社 神戸大学

鈴木よねさんからの贈り物

本公演は協賛企業各社のご協力により、
神戸市を通じて教育、港湾、観光関係者100名をご招待しています。

招待事業

鈴木商店
刻印入



鈴木商店

ご鑑賞のみなさまに、創業時の鈴木商店の
取引先である亀井堂総本店の瓦せんべいをプレゼント！



鈴木商店とは

「幻の総合商社・鈴木商店」は開港間もない明治7(1874)年、神戸で洋糖
引取商を創業。製糖、樟脳、薄荷からセルロイド、鉄鋼、造船、人絹と、軽工業
から重化学工業へ多角化。大正6(1917)年には、売上が当時のGNPの1割
にも匹敵し、日本一の総合商社となる。

しかし、現在の神戸市中央区栄町通7丁目にあった本社屋は米騒動で
焼き打ちにあい、大躍進に暗い影を落とす。



鈴木
よね

鈴木商店の創業主・鈴木岩治郎の妻・
よね。明治27年、岩治郎の急逝後、
経営を番頭の金子直吉に託す。直吉
の商才を見抜いたよねは経営に一切
の口出しをしなかったが、一方で女子
教育の支援など神戸の発展に貢献
した。



金子
直吉

主家・岩治郎の死後、経営を任された
金子直吉は、多くの政治家や官僚と
も親交を持ち、国益を志向して多く
の事業を展開。次々と製造業を立ち上
げたことから「煙突男」と呼ばれ、かの
渋沢栄一をして「事業家として天才
だ」と言わしめた。

鈴木商店年表

西 暦	年 号	出 来 事
1874	明治 7	鈴木岩治郎、神戸の内海岸通四丁目(現・栄町通4丁目)にて 鈴木商店創業
1886	明治 19	金子直吉、丁稚奉公として入店。後に「煙突男」「財界のナポレオン」と称される
1894	明治 27	岩治郎死去。妻よね(お家さん)、経営の一切を直吉らに委ねる
1900	明治 33	神戸に樟脳工場を設立し、製造事業に進出
1905	明治 38	神戸製鋼所を設立。以降、80もの事業を設立、明治・大正期の産業革命を牽引
1917	大正 6	第一次世界大戦の好景気もあり、鈴木商店の貿易年商は日本一に 高畑誠一は連合相手強気のビジネスを展開、カイゼル(皇帝)高畑と恐れられる
1918	大正 7	米騒動、鈴木商店本店焼き打ち事件
1922	大正 11	ワシントン海軍軍縮条約による重工業不振。翌年、関東大震災により苦境に
1927	昭和 2	鈴木商店破綻
1928	昭和 3	高畑誠一ら日商(現・双日)を設立。神戸製鋼所、帝人など優良事業は自主再建 金子直吉は太陽曹達(現・太陽鋳工)にて再起を図る

鈴木商店記念館とモニュメント



鈴木商店記念館は、そこに生きた人々の群像、
関係した企業集団についての調査資料、現代への遺産
など、経済史の視点から「総合商社 鈴木商店」を紹介する
インターネット上の記念館として情報を発信しています。



また、神戸港開港150年記念(2017年)として、ゆかりの企業の協力のもと、
米騒動の際に焼き打ちされた鈴木商店本店跡地にモニュメントを建立、
神戸市に寄贈しました。

2027年に神戸港は開港160年を迎え、かつ、鈴木商店が破綻し、その魂を
受け継いだ社員らが再出発してから100年にあたることから、鈴木商店創業
の地に新たなモニュメントを建立する予定です。

(創業の地は、栄町通4丁目、現在の和田興産本社ビルに位置します)